

広島大学附属 中・高等学校

JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL
AFFILIATED TO HIROSHIMA UNIVERSITY

THE スクール・ソング SCHOOL SONG

スクールソングについて

「校歌」は、明治四十年に制定され、戦後、歌詞の一部が修正された。もともとは長調であったと思われるが、現在ではへ長調で演奏している。作詞は学生吟詠集「白雨」の編者でもある田中好賢(国漢)、作曲は高師教授吉田信太であるが、外国の曲の編曲とも伝えられている。

「開校記念日の歌」は、戦前長く附属の唱歌を指導した高師教授長橋熊次郎の作曲と伝えられているが、よく似たメロディーが全国にあり、外国の曲を下敷にしたと思われる。終わりから二小節目の「きょうの」については、「ラソラ」と「ソラン」の二通りがある。

「学園歌」(朝日輝く)は、昭和十二年に学友会が募集し、文理大二年山田光遵が入選した。作曲は附小訓導山本寿によっている。「学生歌第二」は、昭和二十六年、和田稔(42回生)の作詞に紙恭輔(11回生)が作曲し、「学園歌」(若い風)は、創立六十周年を記念した昭和四十年、米山美恵子(57回生)の作詞に同じく紙恭輔が作曲した。また、「学園歌」(アカシアの香り)は、創立八十周年の昭和六十年、伊藤裕之(77回生)の作詞に、喜多村あかね(76回生)が作曲した。

応援歌「過去十年」「猛球かける」は、ともに大正四年に对外試合が許可されたときに作られたが、当初は、野球部の応援歌であった。「猛球かける」の作詞は下村浩(8回生)と伝えられている。「勝利の歌」も大正期に作られ、作詞は田中浩造(14回生)である。

「臨海の歌」(水泳部の歌)は、臨海授業が山口県室積に固定した直後の大正六年に作られ、作詞は鈴木敏也(国漢)である。「攻学寮讃歌」は、戦後、霞町に攻学寮が再建されたとき、藤畝信司(53回生)などによって作られ、愛唱された。

(「創立八十周年史」より)

校歌

田中好賢 作詞
吉田信太 作曲

莊嚴に *mf*

1. み が け る こ こ ろ は く に の ひ か り た
2. き た え る か い な は く に の ち か ら た

ゆ ま ず つ と め ん わ こ う ど わ れ ら
ゆ ま ず つ と め ん わ こ う ど わ れ ら

f

は な は わ ら い と り は う た う ゆ う ぎ の み そ の た
り よ う と あ が り ほ う と か け る き ほ う の い ず み た

の し や み と せ を わ が ま な 一 び の や
の し や み と せ を わ が ま な 一 び の や

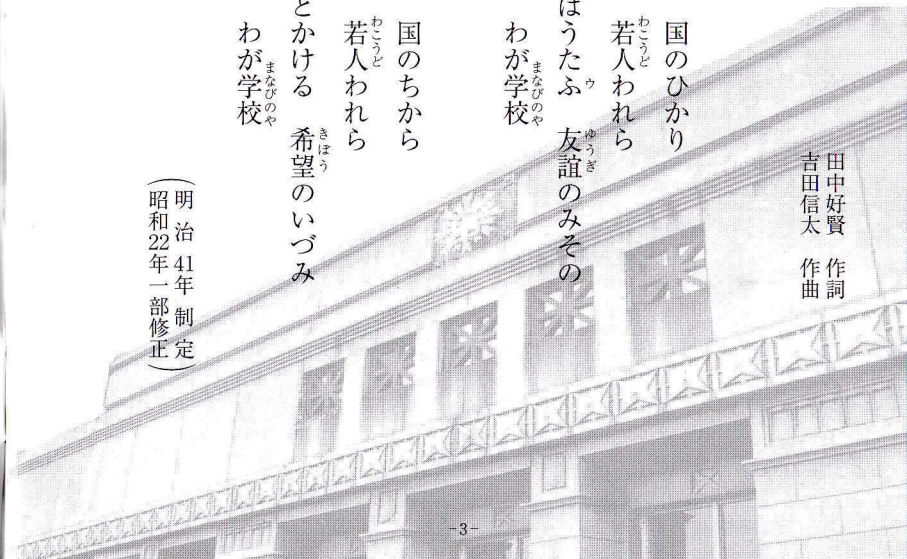
校歌

田中好賢 作詞
吉田信太 作曲

一 磨けるところは 国のひかり
たゆまず勉めん 若人われら
花はわらひ 鳥はうたふ 友誼のみその
楽しやみとせを わが学校

二 鍛へるかひなは 国のちから
たゆまず勉めん 若人われら
龍とあがり 鳳とかける 希望のいづみ
楽しやみとせを わが学校

明治41年制定
昭和22年一部修正



We should polish up our own spirits

広島大学附属中・高等学校歌

田中好賢 作詞
吉田信太 作曲
羽生義正 訳詞

1)
We should polish up our own spirits,
And be lights that shine on our land.
Now let's work hard day after day,
Young and hopeful as we are all.
Flowers smile on us;
Birds sing in chorus.
Merrily in the playground side.
How happy we are
In enjoying our life
For three years in so lovely a school!

2)
We should brush up our own bodies,
And be powers that hold our land.
Now let's work hard day after day,
Young and hopeful as we are all.
High as the Ryoh hops;
Far as the Hoh flaps.
So our hopes are soaring to the sky.
How happy we are
In enjoying our life
For three years in so lovely a school!

(平成9年作成)

開校記念日の歌

長橋熊次郎 作曲

一
うれし うれし けふのきねん日
わががつかうの たちぞめし
よき日はまたも めぐり来ぬ
ひらけゆくよに さきがけて
いやとし月に すすみこし
学びの道を たちかへり
おもへばうれし けふのきねん日

二
たのし たのし けふのきねん日
わががつかうの いはふべき
よき日はまたも めぐり来ぬ
まなびのみちの 花もみぢ
さらにかざして こむとしの
よき日のけふに あはましと
おもへばたのし けふのきねん日

学生歌

和田 稔 作詞
紙 恭輔 作曲

一 緑萌ゆ アカシアの葉陰
囀る小鳥の歌は

友愛のオルゴールか

附高 附高 いざ若き友よ
歌へ歌へ われらがまどひの歌を

二 不死鳥の炬火を分けもちて
きらめく黄金の文字は

いさをしのシンボルか

附高 附高 いざ若き友よ
仰げ 仰げ われらが希望の星を

三 瀬戸内の 岸辺洗ふ波の
清らかに 強き響きは

創造のグローリアか

附高 附高 いざ若き友よ
聞かん 聞かん われらが血潮の音を

(昭和26年作成)

学園歌「朝日輝く」

山田光遵 作詞
山本 寿 作曲

一 朝日輝く 水都の空に
競ひそそれる 四つの学舎
若き生命 我等集ひ
栄ある歴史 ここに仰げば
教化の木鐸 高らかに
貴き使命 響きぞわたる

二 北斗微笑む 鯉城のほとり
こぞり並立つ 四つの学舎
若き精神 我等集ひ
不断の思索 ここに滾れば
真理の聖火 明らかに
地上の文化 輝きわたる

三 瀬戸の内海 波打つところ
陸み寄り立つ 四つの学舎
若き力 我等集ひ
遙き理想 ここに謳へば
尚志の大道 遠白く
希望の行手 ひらけぞわたる

(昭和11年作成)

学園歌「アカシアの香り」

伊藤 裕之 作詞
喜多村あかね 作曲

- 一 アカシアの香りただよう
友愛のキャンパス
みつめあう瞳輝き
夢に生きる時代
希望の旗をかかげ
若き魂よ燃えあがれ

- 二 緑濃きデルタにひらく
自由の花一輪
それぞれの心に刻み
夢に急ぐ時代
未知の光を求め
若き魂よ燃えあがれ



(昭和60年作成)

学園歌「若い風」

米山美恵子 作詞
紙 恭輔 作曲

- 一 駆けよ 若い風 ヤッホ
アカシアの花咲く校庭に
自信あふれた足踏みしめて
駆けよ 駆けよ
駆け続け
附属に
新たな息吹を盛れよ

- 二 燃えよ 若い太陽 ヤッホ
青空の彼方はるかに
恐れを知らぬ胸うち張って
燃えよ 燃えよ
燃え続け
ついに
輝く太陽となれ



応援歌「若き腕」かいな

一 若き腕かいなを 打ち振れば

二 猛き選手たげんの 勝勝ちを期し

燃ゆる血潮は ほとぼしり

まなこをあげて 望みやる

ああこの旗に こもりては

歌声高き 紺碧こんぺきに

六百人が 勝勝ちの歌

牙さゆる附高(附中)の 旗の色

校 歌(旧歌詞)

田中好賢 作詞
吉田信太 作曲

一 磨けるところは 国のひかり

たゆまず勉めん をのこわれら

花はわらひ 鳥はうたふ 友誼ゆうぎのみその

楽しいいつとせ わが学校まなびのや

二 鍛エへるかひなは 君の御盾みたて

たゆまず勉めん をのこわれら

龍りようとあがり 鳳ほうとかける 希望きぼうのいづみ

楽しいいつとせ わが学校まなびのや

(明治41年制定)

応援歌「過去十年」

一 過去十年の 夢包む

ポプラの梢 風になる

我等が庭の 矢さけびは

附中健児の 魂の音

聞けますらをの 雄たけびを

二葉の嵐 その下に

鍛へ鍛へし 腕よ今

力に唸る 晴れ戦

三 勇める龍の それのごと

鉄腕撫して 待ちにける

我等が力 ためすべき

時は至りぬ 機は充ちぬ

胸に血潮は ほとばしり

勝利の旗を 仰ぎ見よ

健児三百 望みてし

月桂冠は 我にあり

(大正4年作成)

二 眠れる獅子は 今覚めぬ

内に蓄へ 養ひし

男の子の力 ためすべき

時は至りぬ 機は熟す

赤き血潮の 高鳴りを

抑へかねたる 我校の

健児三百 意気高し

力に唸る 晴れ戦

注 CDでは、現状に合わせて

「附中」・「附高」、「三百」・「六百」
で収録してあります。

応援歌「猛球かける」

一 猛球かける 我が守り

敵陣攻むる 我が手並

どよめく歌に 勇みつつ

きらめく旗に振るひたち

栄のかんむり いただけや

向はん敵は 何者ぞ

二 炎熱あかき 夏の日も

寒気凜冽 冬の日も

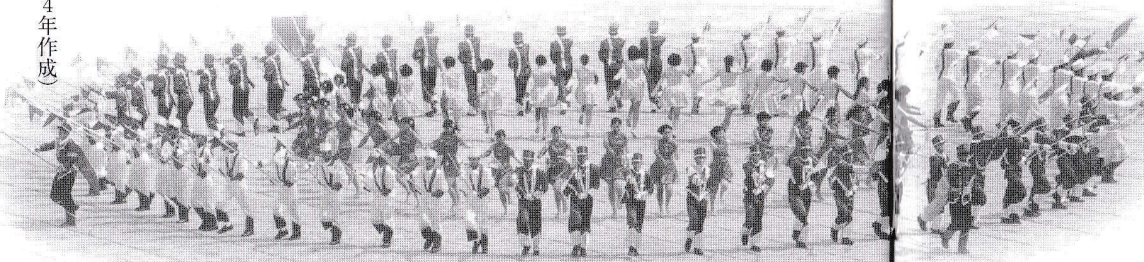
うらみに燃ゆる 球の上

誓ひしあとや 今かたし

臥薪嘗胆 一年の

男の子の悲涙 苦かりき

(大正4年作成)



臨海の歌「緑影濃く」

鈴木敏也 作詞

一 緑影濃く繁り合ふ

アカシアの庭後にして

今し浦わに來て見れば

夏は涼しき姿かな

いざや七日の朝夕に

心を磨き胆を練り

健児の意気を 示さばや

三 雲の峰立つ青空に

真昼の光漲みなぎりて

瀬戸の磯辺の大夏は

白銀色に輝けり

燃ゆる血潮の若き身に

ほぎらの波を打ち砕き

健児の腕を 鍛はずや

二 沖の島山霧はれて

薫る朝風吹き通ふ

清き眺めを外にして

学びのつとめ今終へぬ

ひざしは高し いざゆきて

寄せては返す満潮に

健児の胸を 鍊らんかな

四 夕陽沈みて雲迷ひ

海は紫紺に暮れゆきぬ

沖の釣舟影消えて

松吹く風の静けさよ

われらも いざや立帰り

幸ある今日を しのびつつ

健児の歌を 誦せんかな

(大正6年作成)

勝利の歌「勝ちぬ勝ちぬ」

田中浩造 作詞

一 勝ちぬ 勝ちぬ 我等は勝ちぬ

さしもの敵も すでに散り

日頃の望みを 達し得ぬ

附高(附中)健児よ いざや歌へ

二 揚げよ 揚げよ 凱歌がいかをあげよ

早や敵軍の 影消えて

夕日は西に 沈みゆき

真白の旗に 赤く映ゆる

広島高師 山男の歌

一 同じ山への憧れを

胸にいだきて 行く道は

教への道ぞ 山男

広島高師の 山男

四

深山紅葉に 片時雨かたしぐれ

天幕テントぬらして 暮れてゆく

心なき身の 山男

ものの哀れを 知る時ぞ

二 人皆花に 酔ふ時も

残雪恋ひて 山に入り

涙を流す 山男

雪げの水に 春を知る

五

町の乙女をとめを 思ひつつ

尾根の処女雪 けたてては

シューテンボーゲン 山男

無我をさとするは この時ぞ

三 広島の山 低くとも

夏は故郷の 山が待つ

岩をよずれば 山男

浩然こうぜんの気は 比ひしがたし

六 同じ教への 道を行き

まぶたに浮ぶ 山の道

道はひとつぞ 山男

広島高師の 山男

攻学寮讃歌

一九六三年卒業生三同 作詞・曲

(藤 畝 他)

一 林影ながき 鈴懸の

下つどに集いて 語り合あう

我れ等 攻学 健児ますらおの

友愛ゆうあい薔薇ばいの ごときにて

四 青春うたえ 猛球に

冬の剣に 夏の炎ひに

我れ等 攻学 健児の

気魄きぱくをこめて 闘わん

二 山に上りて 広島の

空と海とを 大観す

我れ等 攻学 健児の

燃ゆる大志を いざ成さん

五 切磋琢磨や 天賦の才

不屈こころの歩みの 精神こころもち

我れ等 攻学 健児の

不夜の灯 あかあかと

三 しじまを破る 夜笛にも

思い浮かぶは 吾が故郷

我れ等 攻学 健児の

郷さとの愁おもい 来る夢に

(昭和37年作成)

スクール・ソングCD収録のメンバー

演奏(管弦楽班) 指揮:原 寛曉(教員)

Violin I

高下亜矢子(高2)
嶋田 剛(高2)
内藤 香織(高2)
鯨井恵理子(中3)
松本 惇子(中3)
天野 恵(中2)
野上 知美(中2)

森信秀一郎(高1)
胤森 慧子(中3)
歡喜 晴加(中2)
澤原 彩(中2)

Violoncello

井上亜美子(高2)
田中 裕美(高2)
黒川 朋子(高1)
佐藤 庸子(高1)
徳永 真実(中3)
山田 祥子(中3)
三村 純代(中2)
渡辺真衣子(中2)

Violin II

皆川 詩織(高2)
新下久美子(高2)
福永 道彦(高2)
瀨内希実子(高1)
中村 瑠衣(中3)
池脇 美保(中2)
岡本 聖生(中2)
柴 恭史(中2)
隅井麻美子(中2)
前島 幸恵(中2)
三村野乃花(中2)

Contrabass

竹谷知永子(高2)
末田 和孝(高2)
福谷 隆(中3)
渡邊 麻衣(中2)

Flute

Viola
中川 裕香(高2)
井上亜希子(高2)
橋本 美央(高2)
原井 陽介(高2)

中富つばさ(高2)
續木 孝之(高2)
濱西 由実(高1)
中川 望(中3)
森信 友絵(中2)

Oboe

中村 尚子(高1)
大世渡麻子(中2)

Clarinet

浜名 智美(高2)
杉山 晶子(高1)
福原 彩乃(中3)
中津井洋子(中2)

Fagotto

中村 有希(高2)
白砂 恵(中2)

Horn

大井智保子(高2)
森永 佳未(高2)
湯浅 智世(高1)
朝日佑里那(中2)
數佐友紀奈(中2)

Trumpet

比本 恭史(高2)
寺戸 菜梨(高2)
西田 祐子(中3)
松藤 裕介(中2)

Trombone

長谷 和枝(高2)
藤井 澄恵(高1)
柄 晴子(中3)
村上 尚史(中2)

Tuba

市川 賢司(中2)

Percussion

上野 孝弘(高1)
藤岡 慧(中3)
隠善富士夫(教員)

合唱(合唱班)

指揮:増井知世子(教員) 猪原龍吉(49回生)
ピアノ伴奏:土屋照子(50回生) 増井知世子(教員) 太鼓:猪原龍吉(49回生)

(生徒)

今中 秀佳(高3)
坂田 彩(高2)
瀬戸川おかり(中3)
玉本 聖佳(中2)

岡本 智恵(高3)
鉄升由紀子(高2)
板倉 和美(中2)
難波久美子(中2)

吉田 一恵(高3)
榎田 春香(高2)
岡島あゆみ(中2)
吉兼 恵美(中2)

石原 幸子(高2)
安田健一郎(高2)
小坂 貴子(中2)

(卒業生)

大谷 正(37回生)
高田 勇(41回生)
松尾 康二(46回生)
入江 乙彦(53回生)
鉄升 千穂(66回生)
藤城万穂美(84回生)
久保田啓作(90回生)

平尾 博司(38回生)
野村 英敏(43回生)
猪原 龍吉(49回生)
榎並 繁(54回生)
高橋 裕子(67回生)
武内 嘉宏(88回生)
瀬戸川滋彰(90回生)

田辺 孝弘(38回生)
海部 蓉子(44回生)
土屋 照子(50回生)
原田 康子(58回生)
山口 慎一(70回生)
渡辺 大祐(90回生)

田濱 康夫(40回生)
山崎 節子(44回生)
日域 昭栄(51回生)
松田 道枝(58回生)
永井 理恵(71回生)
岡田 真理(90回生)

(賛助・教員)

角 由美子(賛助)
原 寛曉(教員)
富永 和宏(教員)

加治家美智子(賛助)
仲渡 雅史(71回生・教員)
増井知世子(教員)

由利 直子(教員)

西原 利典(73回生・教員)

表紙デザイン:竹谷知永子